



2019-20 年度テーマ

第 2670 地区

宿毛ロータリークラブ会報



■会長	小栗 学
■幹事	保田 孝司
■SAA	吉尾 航
■クラブ奉仕委員長	高瀬 一也
■職業奉仕委員長	東 豊喜
■社会奉仕委員長	西田 教世
■国際奉仕委員長	岡崎 利久
■青少年奉仕委員長	竹葉 良仁

■例会日：毎週木曜日 12:30~13:30
 ■例会場：宿毛市幸町 秋沢ホテル
 ■事務所
 〒788-0003 高知県宿毛市幸町 6-43
 TEL 0880-63-3416 FAX 0880-63-3417
 URL <http://www.gallery.ne.jp/~sukumorc/>
 E-Mail sukumorc@mb.gallery.ne.jp

例会報告 第2686回 令和2年1月23日（木曜日） 天気：雨

- 例会司会：吉尾SAA
- 開会点鐘：小栗会長
- Rソング：我等の生業
- お客様：中垣慶祐様（宿毛市地域おこし協力隊）

四つのテスト 言行はこれらに照らしてから

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

■会長報告 小栗会長

皆さんこんにちは、今日は暖かくなりました。なにか気持ち悪い暖かさです。インフルエンザも流行っているので気をつけてください。2/15 I M、先週の理事会で泊まりで行くことになりました。来年の役員もほぼ決まりましたので、よろしく願いいたします。

■幹事報告 保田幹事

■ガバナーエレクト事務所より：

- ・2020-2021 年度 短期交換派遣学生 一次選考面接について

■ガバナーエレクト事務所より：

- ・2020-2021 年度 短期交換計画について

■ガバナーエレクト事務所より：

- ・2020-2021 年度 短期交換派遣学生募集要項

例会終了後、臨時理事会を行います。

欠席届 7名

■委員長報告

大島桜公園担当委員会 竹田委員長

去年の暮に筒井先生の骨折りでやっと周辺の草刈りが済みまして、石の踏み段を据えました。その際に吉尾会員にも協力いただきました。問題の一方通行の件ですが、時間がかかっていますがコースを変えてたためです。緩い場所を通るルートになったのです。今後進んでいくと思いますし、55周年の石碑もある程度道が出来てから設置するつもりです。今年度末には完結したいと思います。それと桜の植樹20本については吉尾さんをお願いしたいと思っております。それと来月の27日タイムカプセル埋設についても現場の準備をしなければならぬと思っております。

■プログラム 竹葉会員

宿毛市企画課地域おこし協力隊沖ノ島振興担当 兼 集落活動センター妹背山振興担当 中垣慶祐様



こんにちは。中垣慶祐と申します。本日はよろしく願いいたします。まず始めに本日、宿毛ロータリークラブ様の例会で卓話させていただくことができ嬉しく思います。誠にありがとうございます。私が参加させていただくことになった経緯としましては、ご存じの通りかと思っておりますが、宿毛市沖の島には妹背山という山が

あり、その山頂の展望台が近年、傷んでおましてその修繕にいられていた要工務店様の竹田様に偶然、島でお会いしてその際に話が弾み、竹田様が快く宿毛ロータリークラブ様を幹旋して下さったことから始まりました。ありがとうございます。私の職業は宿毛市で地域おこし協力隊をしており、担当は沖の島の振興です。その為、沖の島に常時住んでいて竹田様とお会いすることができたという経緯でございます。ここで簡単に私の自己紹介を少しさせていただきます。地域おこし協力隊とは総務省が推進している制度で業務内容は、受け入れ市町村によって異なりますが、基本的には他都道府県の者が過疎気味の地域に移り住んで新しい風を吹かして盛り上げようという業務内容で任期は3年となっております。又、任期終了後はその地域に定住を目指すという制度です。現在、私は色々なことをしておりますが、私は地域おこし協力隊の任期終了後は沖の島で流下式塩田と呼ばれる上から海水を落として風や日光などで海水塩分濃度を高めて、その後、ビニールハウスで天日干しをして仕上げをする塩作りを生業として起業し、定住を目指したいと考えております。まだ発想段階でほぼ何も進んではいないのが現状ではありますが、島や宿毛市の振興に繋がると確信して、恩返しの意味も込めて実現させたいと考えております。私は愛知県名古屋市生まれで30歳です。趣味は登山やランニングです。来月の高知龍馬マラソンや宿毛マラソンでも走ります。昨年までは愛知県に住んでおり、トヨタ自動車株式会社に約11年勤めて車作りをしておりましたが、30歳を前に心機一転して地域おこし協力隊に転職をしました。転職と同時に高知県宿毛市沖の島に移住して約1年になります。業務内容は近年、高知県が推進して各集落に立ち上げている集落活動センターという集落組織があるのですが、その事務局をしております。沖の島の集落活動センターは妹背山の名前と高知県が良くキャッチフレーズで使っている高知家から名前を取って妹背家と名付けられております。その妹背家の事務局業務の合間に沖の島の振興に繋がる活動を模索して行動しております。集落の草刈り、お祭り、各種行事のお手伝いから。映画上映会などの島民向けに憩いのイベントなどを企画して運営したりしています。又、沖の島では2000年辺りからイノシシが海を泳いで島に渡って繁殖して農作物への被害も著しいものがありますので昨年は狩猟免許を取得してイノシシ対策と捕獲を行いました。捕獲したイノシシをジビエ肉として活用したいところですが、販売するには衛生基準のハードルがとても高く厳しいのが現状です。その為、イノシシの牙や皮などで有効活用を模索しております。今月の始めに鞣し業者に元皮を送って皮を鞣してもらっています。完成したらキーホルダーなど作って沖の島のお土産にしたいと考えています。その他には沖の島で古くから栽培されている落花生やシモン芋の栽培をしてそれらを使用したお土産品の開発などを島民の方達と行っています。産業祭などのイベントに出店を目指しているのでぜひ来てくださると嬉しく思います。3月からは宿毛市産業振興課経由で直七生産株式会社様から直七の苗を20本いただいて沖の島で栽培を始める計画でもあります。又、集落活動センターの新規事業で島の産業開発として沖の島でかつて盛んに行われていた炭焼きを復活させようと考え、集落の皆さんと今、新たに炭窯を建築中でございます。他には沖の島のWEBサイトを作成したり、観光マップや妹背山登山マップを作成したり、雑誌、新聞などに島の取材依頼を行って

観光宣伝にも力を入れております。近い内にじゃらんのフリーペーパーのご当地高知で沖の島の集落活動センターが行っているレンタル自転車が紹介された記事が掲載される予定です。駅や空港などで配布されるので是非読んでみてください。又、昨年にグーグルからカメラ機材を借りて沖の島中を撮影して回ったのでこれも近い内にグーグルマップのストリートビューで公開予定です。宿毛市市営定期船にもカメラを積んで撮影したので片島から沖の島までの定期船航路も公開予定です。このような活動を行っています。ここで少し、あらためまして沖の島の簡単なご説明をさせていただきます。沖の島は宿毛市片島港から約25kmの南西部に所在する有人離島です。面積は約10キロ平方メートルで最盛期には島の各地に集落があり、人口3500人ほど住んでいましたが、現在は母島・弘瀬・古屋野・久保浦・長浜の5つの集落で構成されていて人口は130人ほどに減少してしまっています。産業としてはかつては漁業が盛んでしたが、現在は漁師が少なくなり、離島という恵まれた環境にありながら釣りをしない者にとって魚が手に入りにくい状況になっています。沖の島は別名風の島とも呼ばれるくらい風が強く背の高い農作物は中々育ちません。その為、風に強い落花生とサツマイモが古くから栽培されていて美味しいと評判も良いのですが、平地が少なく、イノシシ被害も有りますし、人でも足りず、大量栽培することができず、自家消費に留まり、市場に出回ることがほぼないのが現状です。現在は釣り客を船で磯に渡す渡船業や宿泊業などが主な産業です。又、島の少ない平地を活かした段々畑や石段で築かれた集落の景観は趣があって国土交通省が2009年に沖の島の景観を島の宝100景に選出しました。足摺宇和海国立公園にも指定されている自然豊かな島です。又、平安時代の今昔物語集に島の記述があります。鎌倉時代には山伏や関東の相模の国の三浦武家が島に移り住んでいたと言われており、歴史深い島でございます。室町時代には島が土佐の国と伊予の国に分断され、島の中で領土争いをしていたという珍しい歴史もあります。その為、400年程経った今でも島ではかつての国境を境に伝統や文化の違いが見られます。又、島の名所は沢山あるのですが、白岩岬と呼ばれる景勝地の岬からの眺めは抜群に最高です。無料のキャンプ場としてもトイレ・水道・バーベキュー場・東屋・展望台などが整備されています。又、島の岸壁には七ツ洞と呼ばれる7つ大穴が空いている名所もあります。こちらは母島～弘瀬間にあり、宿毛市市営定期船から遊覧することができるので船がその区間を巡航する際はぜひ船のデッキに出て眺めてみてもらいたいと思います。そして今回、皆さんに一番にお伝えしたいことは沖の島にある最高峰である妹背山でございます。妹背山は標高404mと低山ではありますが、その登山道では島独特のかつての段々畑跡の石段を眺めたりして遺跡感を楽しむことができます。植物も豊かで沖の島で自生しているハカマカズラやオキノシマテンナンショウは他では中々見られない希少種です。他にはアコウやスタジイの大木など楽しむことができます。フジバカマやツワブキなども豊かで花の香りに誘われて飛来したアサギマダラを觀賞することもできます。アサギマダラは1500km以上の長距離を飛来すると言われる不思議な蝶ちょうです。登山道の間には先ほどご説明した鎌倉時代の山伏が修行したとされる山伏神社や関東の武家の三浦一族のお墓や願掛け地蔵が約120体並ぶ仏ヶ丘があり、神聖な雰囲気にも包まれているパワースポット山です。何よりも要工務店様の竹田様が修繕してくださった妹背山の山頂展望台からは離島ならではの雄大な大海原を眺めることができるとも素晴らしい山でございます。その為、公益財団法人離島センターからは全国の離島にある山から選んでいただき、島山100選に選出されています。又、四国百名山にも選出されています。そんな素晴らしい沖の島の妹背山ですが、残念なことに知名度がいまひとつというのが現状です。沖の島という島の名称が他の島にもありますし、妹背山という山も他にあり、他に負けてしまっています。宿毛市民の方も存在は知っているけど行ったことがないという方がほとんどだとお聞きしております。そこで皆さんの口コミ効果で宿毛市に沖の島という離島がある！そしてその離島には妹背山という素晴らしい山があるということを宣伝して欲しく、本日はお願いに参りました。皆さんのお力をお貸しいただければとても嬉しく思います。又、ぜひ皆さんご自身も宿毛市沖の島の妹背山に登ってみたいと思います。近い内に宿毛市の商工観光課や僕以外にもいる地域おこし協力隊の林業担当、沖の島観光協会、集落活動センター妹背家、島の人が集まって山頂周辺の伸びた木々を伐採して山頂の眺望をより良くする計画もあります。そんな今、勢いのある沖の島の妹背山を是非ともよろしく願いいたします。本日は皆さんの貴重なお時間をいただきまして誠にありがとうございます

た。以上で私の卓話とさせていただきます。ご清聴ありがとうございます。

竹田会員

Q あなたは独身ですか？

A 独身です。

筒井会員

Q 沖ノ島は終戦直後2000人の人口がありました。今日の卓話で感動したことは塩作りを提案されたこと、もう一点はシモン1号という芋は素晴らしい芋です。絶滅しているかもしれませんが、苗を大切にしてください。イノシシとシモンは共存できないので、よく研究してください。

A 私もシモン芋を栽培しました。

竹葉会員

Q イノシシがどのくらいいるのですか？

A 島民の数よりは多いだろう、年間30～40頭はいるだろう。(イノシシは1ペアが12～3匹子供をつくる多産型だ)

有田会員

Q 3年前から島の宝という塩を入れています。落花生も使いたかったが楠山のものを使っている。

竹田会員

Q 妹背山のメールボックスは北海道からもアクセスがあったとのことですか。

A 北海道や宮城などの登山客からの書き込みがあった。

保田会員

Q オオウナギがいると聞きましたが？

A 食べたことがあります。

山田会員

Q 沖ノ島の磯釣りは日本で3本の指に入っている。沖ノ島に泊まった人が優先的に良い磯に降りれる。小学校が滋賀県だったが、琵琶湖ツアーに4年生のときに行った。高知県全域の子どもたちが一度は体験できるメニューがあったらいい。

A 貴重なアドバイスありがとうございます。体験授業として検討できればと思います。



■出席報告

61. 54%